

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		市民生活部環境課		リサイクル係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	1	一般廃棄物処理体制の充実			
事業名	ごみ箱設置支援事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	清掃総務費
	細目	1	清掃総務費	細々目	1	清掃一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)			自治事務			予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
大量消費・廃棄という経済社会システムの中で、資源やエネルギーを限りなく消費し、便利さや快適さを過度に求められてきた生活も今や大きな転換を迫られ、市民の意識も省資源・省エネルギー社会へと変わっている。地球規模で環境・資源問題を考えながら、現在の生活を見直し、身近なところから環境への負荷の少ない生活様式を普及するなど、省資源・リサイクル型の快適で文化的なライフスタイルを構築していく必要がある。		ごみ収納箱等を購入・製造または修繕した自治会に対して補助金を交付する。		ごみ収納箱等を購入・製造または修繕した自治会に対して補助金を交付することにより、街の美観や環境衛生保全の立場から生ごみ等を衛生的に集積する環境を整える。	
活動指標			成果指標		
①設置数			①設置数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(A/B)	
45個		50個		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	補助金	1,050	846,000	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	1,050	846,000
合計		1,050	846,000	合計		1,050	846,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	1,884,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
ごみ収納箱等を購入・製造または修繕した自治会に対して補助金を交付しているが、金額に上限がある。	維持管理を含め、環境美化活動への苦情・相談等については、速やかに対応する。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		環境施設整備室		環境衛生センター		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	1	一般廃棄物処理体制の充実			
事業名 環境衛生センター管理事業									
予算費目	款	4	衛生費	項	2	精巢費	目	2	塵芥処理費
	細目	1	塵芥処理費	細々目	1	塵芥処理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 (廃棄物処理法)				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
一般廃棄物の処理は市の固有事務である。現在の処理施設は昭和57年に供用開始されており老朽化が著しいが、市内で発生するごみを適正かつ安全に処理することが求められている。そのためには施設の適切な管理、定期的な機器の点検や補修を行う必要がある。		市内の全世帯及び事業所から排出される一般廃棄物を滞りなく、安全に(各種環境基準を遵守する)処理することにより、環境保全と生活衛生の向上を図る。		施設の稼働運転のための機器の点検、軽微な補修、各種法令に基づく検査等を行う。	
活動指標			成果指標		
環境衛生センターに持ち込まれたごみ量(収集分も含む)			施設が停止することなく稼働した日数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
26,236トン		26,236トン		100	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
365日		365日		%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	72,498	71,948,284	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
	役務費	2,113	1,962,088		県支出金	()	
	委託料	154,245	151,781,886		地方債	()	
	その他	25,587	19,612,636		その他	()	98,306
合計	254,443	245,304,894	一般財源		()	156,137	111,904,281
合計		254,443	245,304,894	合計		254,443	245,304,894

人件費概算	人工数(人役)	
	人件費(円)	4,050,240

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
ごみ焼却施設の耐用年数は20年~25年とされているが、本市の場合は30年近くが経過しようとしている。加えて、これまでに計画に基づく年次的な補修を行っていないため、設備の損耗が激しい。新焼却施設平成27年度から稼働する予定であるが、それまでの間、正常に運転させる必要があるが、頻繁に発生するトラブルに苦慮している。方が、焼却不能に陥った場合は市民生活に重大な影響がおよび、市は多大なコストを負担することになる。	これまで職員が施設の補修等の管理を行ってきたが、専門性の高い高度な知識が要求される。しかし、業務に必要なスキルを身に付けさせる為の研修を受ける体制も整っていない。また、長年、実務を重ねながら培ってきた知識や技能が後輩に継承されていない。新施設の稼働に合わせ、管理運営は専門業者に委託する等の方法を検討する必要がある。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		環境施設整備室		環境衛生センター		No	2		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	1	一般廃棄物処理体制の充実			
事業名	可燃物処理施設整備事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	塵芥処理費
	細目	1	塵芥処理費	細々目	1	塵芥処理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 (廃棄物処理法)			予算種別	継続	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
市の固有事務である一般廃棄物の処理には、何はさておき、安全・安心が求められる。 施設が老朽化の一途をたどる中、中長期的な計画を策定し年次的に補修・修繕を行う必要がある。	老朽化の著しい施設の補修等を適正に行い、排出されるごみを適正に処理すると同時に延命化と安全確保を図る。	限られた予算の中で、必要最小限の補修・修繕工事等を行う。		
活動指標		成果指標		
環境衛生センターに持ち込まれたごみ量(収集分も含む)		施設が停止することなく稼働した日数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	100
26,236トン	26,236トン	365日	365日	%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	工事請負費	15,000	13,686,000	財(源割内訳)	国庫支出金()		10,000,000
					県支出金()		
					地方債()		
					その他()		
			一般財源()		15,000	3,686,000	
合計		15,000	13,686,000	合計		15,000	13,686,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
			6,350,560				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
これまで計画的な補修等を行っていないため施設の損耗が激しい上、機械設備の把握と対応に高い専門知識と技能が要求される。しかし、専門教育も何も受けていない職員が業務に携わり非常に苦勞を強いられている。また、予算措置もない中で、効果的な補修も行えていない。	新ごみ処理施設が平成27年度から稼働する予定であるが、それまでの間、適正に運転管理が行えるよう手立てをする必要がある。今後は、管理を専門業者に委託する等、検討をする必要がある。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	環境施設整備室	環境衛生センター	No	3
-----	---------	----------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	1	一般廃棄物処理体制の充実			
事業名	塵芥収集車更新事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	塵芥処理費
	細目	1	塵芥処理費	細々目	5	環境衛生センター整備事業費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 (廃棄物処理法)			予算種別	新規	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
一般廃棄物の収集業務を直営で行っているため、塵芥収集車はなくてはならないものである。	環境衛生センターで使用する塵芥収集車を適正に管理し、収集業務の効率化と作業の安全性を図る。	老朽化した車両を、更新計画に基づき更新する。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
更新した台数		車両更新計画により更新した車両の割合		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	33%
6台	2台	100%	33%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	備品購入費	11,400	5,649,000	財(源割内訳)	国庫支出金 (1/3)		
					県支出金 ()		
					地方債 ()	8,500	4,200,000
					その他 ()		
合計		11,400	5,649,000	一般財源 ()	2,900	1,449,000	
				合計	11,400	5,649,000	

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
		384,560

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
塵芥収集車は、その使用形態から痛みが激しく整備を頻繁に行う必要があるが、職員では対応できないため専門業者に依頼しなければならない。また、車両台数に余裕がないため毎日の業務にも支障を生じる。	短時間で対応できる軽微な修繕については職員で行っている。予算との兼ね合いもあるが、リース契約により配置することも検討を要する。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート		部署名	環境施設整備室	環境衛生センター	No	4
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	1	一般廃棄物処理体制の充実
事業名	新ごみ処理施設整備事業					
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費
	細目	1	塵芥処理費	細々目	5	環境衛生センター整備事業費
事務区分(根拠法令)	自治事務 (廃棄物処理法)				予算種別	継続 臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
本市環境衛生センター焼却施設は、供用開始後30年近くが経過しており施設の老朽化が激しく安全処理に陰りが生じている。平成21年度に実施した精密機能検査においても建替の必要を指摘された。また、先に開催された市民会議においても合併特例債適債事業として承認されており、平成27年度末の完成を目指し事業を進める。	国の循環型社会形成推進交付金を受けるための前提となる地域計画を策定し、この中で施設の更新を位置付けるが、地域における廃棄物の3Rを推進し資源の循環・地球温暖化防止を図る。	平成21年…地域計画策定 平成22～24年…調査設計、環境アセスメント 平成24～26年…建設工事	
活動指標		成果指標	
予算化率(予算化額/計画上の事業費)		事業予算の執行率	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
0.37	0.37	100	100
			成果指標の到達度(B/A)
			100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報酬等	14	12,600	財(源割内合訳)	国庫支出金(1/3)	11,627	11,627,000
	委託料	18,696	18,695,250		県支出金()		
					地方債()		
					その他()		
合計		18,710	18,707,850	一般財源()	7,083	7,080,850	
				合計	18,710	18,707,850	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		1	6,350,560				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
合併特例債を活用することから、事業が平成26年度中に完了する必要がある。しかし、意思決定の遅れ等から、事業全体の工程に全く余裕がない。また、建設計画の策定に当たり、広く市民の意見を聞くよう議会からも指摘があった。	新施設の基本的事項を検討するための「山陽小野田市新ごみ処理施設建設計画検討委員会」を立ち上げ、第1回目を開催した。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	環境施設整備室	No	1
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
10 資源循環型社会のまちづくり	2 環境衛生の向上	2	し尿処理体制の充実
事業名 山陽浄化センター管理事業			
款	4 衛生費	項	2 清掃費
目	3 し尿処理費		
細目	1 山陽浄化センターし尿処理費	細々目	1 山陽浄化センターし尿処理費
事務区分(根拠法令)		自治事務	(廃棄物処理法)
		予算種別	継続

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
昭和38年、廃棄物処理施設設置条例による設置で山陽地区のし尿処理が始まった。	市内(山陽地区)で発生するし尿・汚泥を適正に処理し、生活環境の保全や公衆衛生の向上を図る。	許可業者が汲み取ったし尿等を本施設において適正に処理し処理水は放流、汚泥は乾燥させて農地還元をする。	
活動指標		成果指標	
し尿等の処理量		処理率	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
		100%	100%
			成果指標の到達度(B/A)
			100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	34,714	29,439,496	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
	役務費	105	66,960		県支出金	()	
	委託料	5,011	6,971,959		地方債	()	
	原材料費	0	31,080		その他	()	
	公課費	9	7,600		一般財源	()	39,839
合計		39,839	36,517,095	合計		39,839	36,517,095
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
			2,025,120				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
財政状況が厳しい中、施設の老朽化と処理量の増加で大変苦しい施設運営を強いられている。 また、ごみについては減量化の取り組みが可能で施設の負荷軽減が図れるが、市民の排泄するし尿は減量することが不可能である。	平成24年度より、山陽地区のし尿等は全量、小野田浄化センターで処理をする。本施設での処理を停止することで費用の削減が図れる。

事業の方向性(一次評価)	
C	事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		環境施設整備室		0	No	2
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	2	し尿処理体制の充実
事業名	小野田浄化センター管理業務					
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費
	目	3	し尿処理費	細目	1	小野田浄化センターし尿処理費
事務区分(根拠法令)		自治事務		(廃棄物処理法)		予算種別
						継続

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
昭和47年、旧厚狭郡楠町との一部事務組合として事業開始。平成元年、施設の老朽化と生活様式の変化に対応するため本施設を建設した。平成19年には、市町村合併に伴い旧楠町が外れ旧山陽町との合併になり現在に至る。山陽浄化センターの老朽化が激しいため市内全域の処理を行うため、平成20年から基幹整備を行っている。		市内(小野田地区)で発生するし尿・汚泥を適正に処理し、生活環境の保全や公衆衛生の向上を図る。		許可業者が汲み取ったし尿等を本施設において適正に処理し処理水は放流、発生する汚泥は脱水後、焼却し埋め立て処分をする。	
活動指標			成果指標		
し尿等の処理量			処理率		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)	実績値B(単位)
				100%	100%
					100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	59,589	56,870,140	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
	委託料	51,120	44,119,950		県支出金	()	
	備品購入費	305	248,325		地方債	()	
	役務費等	103	119,688		その他	()	
					一般財源	()	111,117
合計		111,117	101,358,103	合計		111,117	101,358,103
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
			3,281,120				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成24年度から山陽地区の汚泥等も受け入れることとなるが、安定処理が可能かどうか、また、処理量の増加に伴うコストがどの位になるか正確に把握できない。	平成24年1月から、山陽地区のし尿等を試験的に受け入れて処理することとする。1月に25%、2月に50%、3月に75%と段階的に増やし4月から全量とする。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	環境施設整備室	0	No	3
-----	---------	---	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	2	し尿処理体制の充実			
事業名	小野田浄化センター基幹整備事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	3	し尿処理費
	細目	1	小野田浄化センターし尿処理費	細々目	1	小野田浄化センターし尿処理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)	自治事務 (廃棄物処理法)				予算種別	継続	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
本施設は経年劣化による腐食損傷や故障が頻発しているため、また、将来的に山陽地区のし尿等も処理をする計画である。このため、平成20年度より基幹整備を行い、市内全域を対象にした体制を整えることとなった。 なお、山陽地区からの全量受入れは平成24年度からの計画である。	本市全域のし尿等の処理が安定的に行えるよう法に基づく精密機能検査を実施し、施設の現状を的確に把握したうえで整備を行う。	精密機能検査の実施により整備方針等の資料を得た。これにより、汚泥脱水機及び前処理装置を更新する、また、ポンプ能力を向上させ各種槽の改修工事を行う。	
活動指標		成果指標	
		整備率(投資額)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
		193,007,850円	104,829,850円
			成果指標の到達度(B/A)
			54%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	5,565	441,000	財(源割内合訳)	国庫支出金()		
	工事請負費	229,982	104,388,850		県支出金()		
					地方債()	225,200	101,700,000
					その他()		
			一般財源()		10,347	3,129,850	
合計		235,547	104,829,850	合計		235,547	104,829,850
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.4	2,653,120				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
統合により受け入れ量が増加するため、運転管理の見直しが必要になる。	小野田地区収集車両の搬入が少ない時間帯(8:30~9:00、13:00~13:30)に山陽地区からの収集車両を受け入れる等、時間やその方法についての検討を進める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート		部署名	土木課		管理係	No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	3	産業廃棄物処理対策の促進			
事業名	有帆緑地処分場管理事業								
予算費目	款	8	土木費	項	1	土木管理費	目	1	土木総務費
	細目	4	有帆緑地管理費	細々目	1	有帆緑地管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公共事業により発生する建設残土や産業廃棄物(がれき等)を適正に処理するための施設として、「有帆緑地処分場」が建設された。	公共事業により発生した建設残土等が適正に処理される。 また、施設周辺の環境が維持される。	処分場へ搬入される建設残土、産業廃棄物(がれき等)が受け入れ基準に適合していることを監視するとともに搬入量を管理する。 また、地下水や排水の水質を定期的に監視する。	
活動指標		成果指標	
年間搬入量		水質基準不適合件数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
36,000トン	39,936トン	0件	0件
			成果指標の到達度(B/A)
			100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	燃料費等	294	268,069	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	機械借上料	1,353	1,352,256		県支出金 ()		
	保険料	32	12,492		地方債 ()		
	工事費	1,700	1,648,500		その他 ()		
					一般財源 ()	3,379	3,281,317
合計		3,379	3,281,317	合計		3,379	3,281,317
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		2.15	3,764,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
搬入状況に応じて、土堰堤の高上げ工事等が必要となっている。	予算要求により工事費を確保する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

		部署名	市民生活部環境課		生活衛生	No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	4	斎場・霊園の整備			
事業名	埋火葬関連事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	3	環境衛生費
	細目	4	斎場管理運営費	細々目	1	斎場管理運営経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順		
火葬業務は市の固有の事務であり、長期的に安定的な処理が求められている。火葬施設は老朽化しているため、更新を図り、快適で衛生的な生活環境を確保する。		火葬業務は市の固有の事務であり、長期的に安定的な処理が求められている。斎場の更新を図り、環境衛生の向上に努める		適切な火葬業務等を実施することにより、環境衛生の向上、環境美化の推進を図る。		
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(A/B)	
斎場施設等に係る苦情報告件数			老朽化した斎場の管理運営費			
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)
1件以内		1件		26,039千円		40,133千円
						100
						%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	指定管理料	21,000	21,000,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	工事費	6,878	6,878,000		県支出金 ()		
	修繕料	8,796	8,796,000		地方債 ()		
	管理運営費	3,459	3,459,000		その他 ()		
					一般財源 ()	40,133	40,133,000
合計		40,133	40,133,000	合計		40,133	40,133,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.55	3,454,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
・民間ノウハウの導入やコスト削減を目標に、指定管理者制度を導入しているが、施設面及び住民サービス面に現状を維持していくことが、最重要課題である。 ・特に突発的な事例に対する柔軟な対応が要求される。(技術及び財政面)	・老朽化している施設面において、定期的な保守点検により修繕必要箇所の把握及び優先順位の位置づけが必要である。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

		部署名	市民生活部環境課		生活衛生	No	2		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	4	斎場・霊園の整備			
事業名	霊園管理事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	3	環境衛生費
	細目	3	霊園関連経費	細々目	1	小野田霊園管理運営経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
墓地については、自治体・宗教法人・公益法人のみに経営許可が与えられているので、民間参入が出来ず、恒常的に墓地が不足している。	市民を対象に、公衆衛生の向上と公共福祉の増進を図るため、市営墓地の適正な管理を図る。また、計画的な墓地の整備を行うことで、やすらぎのある街づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・市営墓地の管理及び新たな墓地の整備 ・市営墓地使用料及び管理料徴収事務 ・新設墓地の申請補助事務 		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(A/B)
霊園内の草刈等整備費		市営墓地の適正な管理墓地(4力所の墓地数)		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	99%
3,042千円	367千円	4,672基	4,657基	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	霊園管理運営費	1,565	1,198,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		1,565	1,198,000	
合計		1,565	1,198,000	合計		1,565	1,198,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.65	4,082,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
・3,200区画を超える小野田霊園の広大な敷地の維持管理。	・委託により、年間を通じて、公衆衛生(草木の伐採、ゴミ収集)を中心に維持管理が行えるよう、委託による

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		市民生活部環境課		生活衛生係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	5	環境美化の推進			
事業名	生活衛生向上事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	1	環境衛生費
	細目	2	環境衛生経費	細々目	1	環境衛生経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
市民が安心して生活が営めるよう衛生害虫の駆除方法を指導。また、災害時には病気が蔓延しないよう消毒を行い、公衆衛生を保つ必要がある。		公衆衛生の向上と公共福祉の増進を図る		そ族昆虫の駆除及び情報の提供、消毒作業、市が設置した公衆便所の管理、その他公衆衛生の向上のために業務を実施する。			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(A/B)		
公衆便所の清掃回数、そ族昆虫駆除回数			公衆便所清掃作業にかかる苦情件数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
5回以上/月		5回/月		1件		1件	
100 %							

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	物件費	1,656	1,656,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	補助費等	1,142	1,023,000		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()			2,798	2,679,000
合計		2,798	2,679,000	合計		2,798	2,679,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	942,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
高齢化による維持管理人の雇用確保が心配。	地域の方々とのコミュニケーションを図り、雇用の確保に努める

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	市民生活部環境課	生活衛生係	No	2		
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)				
10 資源循環型社会のまちづくり	2 環境衛生の向上	5	環境美化の推進			
事業名	放置自動車処理事業					
予算費目	款	4 衛生費	項	1 保健衛生費	目	1 環境衛生費
	細目	2 環境衛生経費	細々目	1 環境衛生経費	会計種別	一般会計
事務区分(根拠法令)	自治事務 ()			予算種別	継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公共の敷地内にある放置自動車の撤去及び処分に関する法律の整備を図るが、実際には個人の所有なので、それぞれ所有者の意識の向上が必要である。	公共の場所の美観及び機能を保持し、もって市民の快適な生活環境を確保する。	公共施設に放置された自動車を適正除去するための処理	
活動指標		成果指標	
公共の場における放置自動車把握のためのパトロール		放置自動車の廃棄処理件数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
1回/6ヶ月程度	1回/6ヶ月程度	0件	0
			成果指標の到達度(A/B)
			100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	人件費	5	0	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		5	0	
合計		5	0	合計		5	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0	0				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・市内公共場所における放置自動車の把握については、市民からの通報によるものが中心となるが、パトロールも実施。	・公共施設をかかえる担当課は、定期的な巡回が必要

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		市民生活部環境課		生活衛生係		No	3		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	5	環境美化の推進			
事業名	環境美化向上事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	1	環境衛生費
	細目	2	環境衛生経費	細々目	1	環境衛生経費	会計種別		
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
昨今の環境保全の意識の向上により、ごみの減量化や堆肥かと言った事業が進んでいるが、個人の意識に頼るものが多く、より一層の意識向上を図る必要がある。		環境衛生推進団体を支援することにより、公衆衛生の向上及び公共福祉の増進を図る		<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生推進団体に対する補助 環境衛生に対する苦情処理、情報提供 その他、環境美化の向上のために行う業務 	
活動指標			成果指標		
不法投棄のパトロール回数、海岸清掃実施回数			搬出ごみ処理量		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(A/B)	
年間2回以上実施		2回/年間		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	物件費	62	62,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	補助費等	468	468,000		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		530	530,000	
合計		530	530,000	合計		530	530,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.75	4,710,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・単位自治会と直結している環境衛生推進協議会には、引き続き協力体制をお願いすべきである。	・現在行っているが、各地区への環境美化に対する看板等の設置をさらに増やし、意識向上に努めなければならない。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		市民生活部環境課		生活衛生係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	5	環境美化の推進			
事業名	狂犬病予防・犬猫保護等関連事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	3	環境衛生費
	細目	1	野犬対策事業費	細々目	1	野犬対策事業費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務			()		予算種別	継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
狂犬病は人間にも感染し、死亡率も高い病気で狂犬病予防法で犬には年1回の予防接種が義務付けられているが接種率は下降のみである。		狂犬病予防法第4条の登録事務。 狂犬病予防法第5条の注射済証の交付。 野犬対策、犬・猫の収容及び運搬。		狂犬病予防法による犬の登録及び注射。 動物の愛護及び管理に関する法律に基づき、動物の愛護と適正な飼養に関し、普及啓発を図るための広報活動等。 犬又は猫の引き取り、その他動物愛護及び管理に対する県の業務等への協力。	
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(A/B)
狂犬病予防集合注射の実施			予防注射実数		
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)	実績値B(単位)
7日		7日		4,065件	2,848件
					70
					%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	83	83,000	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
	県動物保護管理協会費	47	47,000		県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	130	130,000
合計		130	130,000	合計		130	130,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,884,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・狂犬病の発生、まん延、撲滅をすることにより、生活衛生の向上及び公共の福祉の増進を図る。	・犬の未登録(注射未実施)を減らし、犬の登録原簿の管理に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		市民生活部環境課		リサイクル係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	10	資源循環型社会のまちづくり	2	環境衛生の向上	5	環境美化の推進			
事業名	アダプトプログラム推進事業								
予算費目	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	3	環境衛生費
	細目	1		細々目	1		会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
旧小野田市では、市、市民、事業者が一体となって、地域の環境美化の促進や清潔なまちづくりを目的に、「空き缶等のポイ捨て禁止条例」を制定したが、大きな効果は上がらなかった。市民と行政とが相互に協力し、一体となった取り組みが求められていたところ、ふるさとづくり協議会からアダプトについての相談があり、平成14年5月から、市民、ふるさとづくり協議会及び市の三者が協力することで、この制度が始まった。		市民が行う公共施設の美化、保全等のボランティア活動を支援することにより、環境美化に対する市民意識の高揚を図るとともに、市民、ふるさとづくり協議会及び市が一体となった地域活動を推進することを目的とする。		活動者が行うボランティア活動に関して次の支援を行う。 ・ボランティア活動保険の加入手続 ・物品の支給(ごみ袋、清掃用具等) ・実施者名を記した表示板の設置 ・収集されたごみの処理	
活動指標			成果指標		
一年間のPR回数			一年間の活動団体増加数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(A/B)	
最低2回		2回		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	保険料	69	69,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	110	109,000		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		179	178,000	
合計		179	178,000	合計		179	178,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,884,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・ボランティア活動者の高齢化により活動を辞退する団体が出てきている。 ・場所によっては清掃活動をしてはまたすぐにポイ捨て等が行われることがあるので、そもそもポイ捨てが行われないような対策をとる必要がある。	・ホームページ・イベント等で活動状況をPRすることにより、市民に環境美化に対する意識を高めていく。 ・ポイ捨て等が頻繁に行われる場所については、ポイ捨て看板の設置やパトロールの強化等を行っていく。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--